

平成 30 年度 第 1 回 十勝定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事要旨

日時：平成 30 年 8 月 23 日（木）15:00～17:00

場所：とちろ広域消防局 庁舎 3 階 屋内訓練場

■ 出席委員（24 名）

志賀委員（座長）、大瀧委員、泉委員、鳥本委員、荒委員、園部委員、森山委員、大林委員、山本美穂委員、高倉委員、吉田委員、仲沢委員、橋枝委員、森委員、大西委員、残間委員、梶浦委員、三浦委員、沼田委員、松原委員、小笹委員、福原委員、松田委員、元木委員

■ オブザーバー

音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、幕別町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町

十勝圏複合事務組合、十勝総合振興局

医療・福祉作業部会、教育作業部会、産業振興・地産地消作業部会、環境作業部会、人材育成作業部会、企画作業部会、消費生活作業部会、電算システム作業部会

■ 事務局

池原政策推進部長、中里政策推進部政策室長、竹川政策室政策主幹、斎藤政策主査、藤原政策室主任

■ 会議次第

- 1 開会
- 2 委員、オブザーバー、事務局紹介
- 3 議事
 - (1) 意見交換の進め方について（資料 1）
 - (2) 十勝管内の人口の推移（資料 2）
 - (3) 協定項目の進捗状況、委員意見等の検討状況（資料 3・4）及び意見交換
 - ①医療福祉作業部会、教育作業部会
 - ②産業振興・地産地消作業部会
 - ③環境作業部会、企画作業部会、人材育成作業部会、幹事会
 - (4) 次期共生ビジョンの策定について
- 4 その他
- 5 閉会

■ 議事要旨

1 開会

2 委員、オブザーバー、事務局紹介

- 事務局から、出席委員・オブザーバー・事務局を紹介

3 議事

- 委員 29 名中 24 名の委員が出席し、過半数に達しており、設置要綱第 6 条第 2 項の規定により、会議が成立していることを報告。
- 会議資料の確認

【座長】

本日は、今年度最初の懇談会でございますけれども、次第にありますように、意見交換の進め方について確認をした後に、協定項目の進捗状況、これまで委員の皆様からいただいたご意見の検討状況について、質疑や意見交換を行ってまいります。また、次期共生ビジョンの策定について事務局から説明がございます。

円滑な議事進行に努めてまいりたいと思いますので、ご協力のほどお願いいたします。なお、発言の際には、挙手をしていただきますよう、お願いいたします。

それでは、はじめに「(1) 意見交換の進め方について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

(1) 十勝定住自立圏の概要及び意見交換の進め方について（資料 1～3）

【事務局】

資料 1、十勝定住自立圏の進捗と共生ビジョン懇談会における議論の視点をご覧ください。左半分は、これまでの流れと今後の予定を示したものでございます。平成 22 年 12 月に帯広市は中心市宣言を行い、平成 23 年 7 月に 19 の取組項目について、各市町村議会の議決を経て、協定を締結しております。また、具体的な取り組みを記載した共生ビジョンを策定し、平成 29 年 3 月の改訂時には、さらなる進捗管理を行うため、各取組項目で数値目標を設定したところです。

本日のビジョン懇談会では、現ビジョンの年度改訂に向けて、協定項目の進捗状況、これまでの委員からのご意見の検討状況について各作業部会から報告し、質疑、意見交換を行っていただきます。第 2 回ビジョン懇談会は 10 月に開催し、現ビジョンの年度改訂案について協議を行っていただきたいと考えております。いただいたご意見を踏まえ、現ビジョンの改訂は 10 月末に行う予定です。

また、現ビジョンの計画期間は平成 31 年度までのため、第 2 回の懇談会では、次期ビジョンの策定に向けた意見交換も行っていただく予定です。第 2 回以降、今年度内にビジョン懇談会を数回開催し、次期ビジョンの策定に向けた意見交換等を進めていきたいと考えております。

次に、資料の右側、本日の議論の視点・進め方をご覧ください。昨年同様、全体を 3 つの分野に区切り、それぞれ「ア」、「イ」の順に進めてまいります。

まず、「ア」については、協定項目の進捗状況、そして、前回の懇談会で委員の皆様からいただいたご意見の検討状況について、資料に基づき各作業部会から説明いたします。その後、内容について質疑があればお願いします。次に、取り組みに対するご意見やご提案は、「イ」の中で伺いいたします。いただいたご意見等については、市町村間で協議し、次回の懇談会で共生ビジョンの改定案とともに、考え方等をお示しする予定です。また、本日欠席の委員の方々も含め、追加のご意見・ご提案がありましたら 9 月 10 日（月）までをお願いします。本日、机上配布した「意見シート」に記入の上、事務局まで送付願います。

なお、先ほど申し上げたとおり、現ビジョンの計画期間が平成 31 年度までとなっているため、新たな取り組みのご提案については、原則、次期ビジョンの策定に向けたものとして取り扱い、次回の懇談会で意見交換を行っていただきたいと考えております。

説明は、以上です。

【座長】

ただ今、事務局から、本日の進め方についての説明がございました。皆さんから何かご質問やご意見はございますか。

(質問・意見なし)

【座長】

別になければ、事務局提案どおり懇談会を進めることといたします。

次に、「(2) 十勝管内の人口の推移」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

(2) 十勝管内の人口の推移 (資料 2)

【事務局】

資料 2 をご覧ください。定住自立圏の施策の効果的な推進を図るため、幹事会では、ビッグデータ等を活用し、さまざまな角度から十勝圏の現状分析を行っています。共生ビジョンの取組項目にも、圏域レベルのデータ集積・活用として位置付けられております。本日の議論に先立ちまして、十勝管内の人口の推移について事務局より報告させていただきます。

初めに、十勝管内の総人口の推移をご覧ください。管内の総人口は昭和 60 年をピークに減少傾向にある。平成 27 年の総人口は 343,436 人であり、昭和 30 年(約 60 年前)と同水準にあります。

2 ページは、管内の人口を年少、生産年齢、老年の 3 区分に分け、それぞれの割合の推移を示したものです。老年人口が増え、年少人口が減少していることがわかる。昭和 30 年と平成 27 年を比較しますと、管内の高齢化率は 3.7%から 28.8%に上昇、年少人口は 3 分の 1 まで減少しています。

3 ページは、こちらは管内の自然動態、出生者数と死亡者数の差し引きを示したものです。平成 17 年以降、死亡数が出生数を上回り、自然減となっています。平成 20 年以降は自然動態のマイナス幅が拡大傾向にあります。近年、死亡数の伸びは鈍化の傾向が見られますが、出生数の減少幅は年により変動がみられます。

4 ページは、管内の社会動態、転入者数と転出者数の差し引きを示したものです。平成 17 年と平成 22 年以外は転出超過となっている。社会動態のマイナス幅は年によって変動がみられますが、400~700 人の転出超過となっています。

5 ページは、十勝管内の合計特殊出生率の推移を示したものです。十勝の出生率は全国、北海道に比べて、高いことがわかります。

6 ページは、十勝、北海道、全国の人口千人対比の死亡率を比較したものです。十勝の死亡率は、北海道に比べ低いことがわかります。ただ、平成 20 年以降は全国よりも高い値を示しています。

7 ページ以降は、北海道の他の地域と比べ、十勝がどのような状況にあるかを主にお示した資料になります。平成 22 年と平成 27 年の道内の人口変化率を比較したものです。増加した地域は石狩のみで、それ以外の地域はすべて減少しています。ただ、十勝の減少率は最も低いことがわかります。

8 ページは、社人研の将来推計による 2045 年の人口減少率を比較したものです。道内の多くの地域が 50%前後減少と推計される中、十勝の人口減少率は石狩に次いで低いことがわかります。

9 ページは、道内各地域の年齢 3 区分別人口を比較したものでございます。十勝の年少人口割合は、根室に次いで道内 2 位、生産年齢人口は石狩、根室に次いで道内 3 位。高齢化率は道内で 3 番目に低いことがわかります。

10 ページは、十勝圏域の人の出入りを図で示したものです。流出は札幌市が最も多く、次に東京圏となっています。札幌市への流出は減少傾向にあることがわかります。隣接する地域からは日高、

オホーツク、釧路からは流入超過になっています。過去流出の上川は転入超過に転じています。一方、釧路からの流入数は3分の1まで減少しています。

11 ページは、平成22年と平成27年の十勝管内の年齢階層別の移動状況を示したものになります。転出入の大幅な動きは10代、それから20代で見られます。20代後半で転入超過のピークを迎え、転入超過の状態が70代後半まで続いていることがわかります。限られた期間のデータではございますが、20代から30代までの若者が、例えば卒業後などに地元へ戻るうごきがあるということが推察されます。

12 ページは、平成22年と平成27年の移動状況を管内市町村ごとに比較したものです。多くの町村では10代から20代前半まで転出超過となっており、20代後半から転入超過となっています。

13 ページは、平成22年と平成27年の移動状況を道内の地域で比較したものになります。20代から30代前半までの転入超過が最も多い地域は十勝です。

14 ページは、十勝における帯広圏、帯広市、音更町、芽室町、幕別町の人口割合の推移を示したものです。昭和30年は45.3%だったが、平成27年には75.5%まで上昇しています。社人研の将来推計では、2035年以降、帯広圏は80%に達すると見込まれており、管内の人口の偏りが拡大していることがわかります。

最後に、15 ページは、2045年の管内の人口減少率を示したものです。帯広市から離れるほど人口の減少率が高くなっており、半数近くの自治体が50%前後の減少率と予測されています。今後、将来推計のとおり2045年を迎えた場合、管内の人口の割合や分布は大きく変化し、地域社会の機能や経済活動、こういったものがこれまでどおり継続することが難しくなることが予想されます。

十勝管内の人口の推移について説明は以上です。

【座長】

ただ今の説明について、何かご質問やご意見はございますか。

【座長】

1 ページで、平成27年から29年にかけて人口が微増しておりますけれども、3 ページ、4 ページで自然動態、社会動態ともに平成27年から平成28年、平成28年から平成29年は減少が続いているのですけれども、人口そのものが増えているというのはどういうことなのかというのを。

【事務局】

資料2の1 ページをご覧くださいなのですが、昭和30年から平成27年までは国勢調査という5年に1回の人口調査の数字でございます。次が平成32年に行われるということで、平成29年の数字は、下に出典がございますが住民基本台帳人口の数字ということで、数字の取り方が違うということでございます。お話しいただいた3 ページ、4 ページの自然動態、社会動態というのは、住民基本台帳、住民票を移すか移さないかということでとる数字なのですが、こちらの方も住民基本台帳の数字をとっているということでして、トータルではやはり、出生死亡という点でも、転出転入という点でも、今マイナスになってきているということです。最新の数字をお知らせしたいということで、定義の違う数字を示してしまったんですけれども内容としてはそういうことになります。

【座長】

ただいまの説明にありましたとおり、使用した統計の取り方がちょっと違うということでして、できましたら、1 ページの方は平成27年までは国勢調査、29年は住民基本台帳というふうに年次と統計を分けるように標記をしていただければと思います。

【座長】 よろしいでしょうか。どうぞ。

【委員】

質問事項ということで、4の十勝管内の社会動態で、平成22年度が、ちょうど転入と転出が逆転しているんですけども、何か理由があったのかを聞きたい。

【事務局】

結論から申しますと、特異な年ということですので、傾向としては転出がじりじりと減ってきている中で、平成22年だけ逆転しているんですが、どういうことがあって逆転しているかはこちらでもつかみかねています。

【座長】

推測ではありますけれども、これは国勢調査の年次でございますので、おそらく数値としてはそれを使って、調査のやり方が違うことが反映している可能性が非常に高いと推測されます。私が質問した平成27年と29年の人口が増えたようにみえているのも、違う統計をつないでいる関係が影響していると考えられます。もし詳しいことがわかりましたら、次回補足いただければと思います。

【委員】

外国人がかなり働きに来ていると思うんですけど、そういう外国人の人口というのはつかめられるのでしょうか。そういう人の動態はどうなのかなと。

【事務局】

今日の資料では、日本人と外国人の内訳をお示ししておりませんが、お話のように外国人の人口は統計の中で把握をしておりますので、今回の会議の資料などで一度お示ししたいと思います。お話のあったように、大きいのは農業の分野で、技能実習生ということで外国からこちらに働きに来ている方がいます。それから、介護の分野でもいらっしゃいます。帯広畜産大学さんの留学生の方がおられたり、十勝にはJICAのセンターがございまして、そこに50人から100人くらい、常に数週間から数か月にわたって研修で滞在してる方がいらっしゃいまして、記憶にある範囲で恐縮ですが、帯広の外国人の数でいうとかなり増えてきているという状況でございます。そのあたり、次回以降で詳しくお知らせしたいと思います。以上でございます。

【座長】

よろしいでございましょうか。ほかにいかがでしょうか。

【委員】

十勝圏域の人口移動状況ということで、そこで上川管内の部分が流出から流入に転じているという変化をのせているんですが、何か大きな、特に要因なり、事情があるのかどうか。内訳をみますと、平成29年と平成19年と10年スパンでプラスになっているんですね。もしわかれば、わからなければいいですから。

【事務局】

ご指摘のとおり、上川管内からは上下しながらなんですが、5年ごとに切っていますけれども、最近、特に流入の傾向に変わってきているという状況にあります。十勝全体としてもそうですし、私も帯広市という数字をみても、上川管内からは流入の傾向にだんだんなっています。ちょっとどういう背景があるか、今いろいろお調べしているような状況でして、はっきりつかみかけてはいるのですが、ここが少し変わってきているということです。

もうちょっと補足的にお話をしますと、釧路とオホーツクについては、ずっと十勝に転入してきているという傾向がありますが、オホーツクからは転入が少し増えてきているという状況がある一

方で、釧路が29年に大幅に少なくなったということではあるんですが、若干長い目でみましても、釧路からの転入は減ってきているという状況があります。特にオホーツク、釧路については、例えば、会社の営業拠点というようなものが、釧路、北見、帯広ということで分かれてあったものが、高速道路がつながりつつありますし、経済の活力も十勝が高いということで、帯広あるいは十勝に営業拠点や物流拠点を集約するような動きがありまして、その関係で転入超過が続いているという状況ではあります。特に釧路に関しては、帯広のと畜場を整備したという関係もあって、さらに転勤してこられている方もいるというお話をお聞きしておりますが、若干、釧路に関しては、拠点の移動ということが少し落ち着きつつあるのかもしれない。上川に関しては今、調べている状況であります。

【座長】

ほかにいかがでしょうか。定住自立圏、いかに住みやすい環境を育てていくかということが大きな課題でございますので、特に成果としての人口の動きというのは非常に重要なポイントかと思えます。よろしいでしょうか、またございましたら、後ほどでも結構でございますので、出していただければと思います。そうしましたら、人口の推移に関する質疑を終了します。

次に、「(3) 協定項目の進捗状況、委員意見等の検討状況、及び意見交換」を議題にさせていただきます。ここからは3つの分野に分けてご報告をしていただこうと思えます。まず、はじめに、医療福祉作業部会と教育作業部会について、資料の説明をお願いします。

(3) 協定項目の進捗状況、委員意見等の検討状況（資料3・4）及び意見交換

【医療・福祉作業部会】

それでは、私からは医療・福祉作業部会について説明させていただきたいと思えます。はじめに医療分野でございますが、「救急医療体制等の確保」につきましては、基本目標兼成果指標を救命救急センターにおける一次患者の利用割合としております。平成29年度実績値は65.2%となっております。平成31年度の目標値64.7%に対して、進捗率は79.2%となっております。取組実績及び進捗状況の評価ですが、救命救急センターをはじめ、周産期医療等を含む不採算部門に対し、管内19市町村による帯広厚生病院への運営費補助を実施してきているほか、救急医療機関の適切な利用の周知などを図ることによりまして、救命救急センターにおける一次救急患者の割合は減少してきておりまして、適正利用が進んでいるとみられており、取り組みは順調に進捗していると評価したものです。今後の課題及び取り組みにつきましては、引き続き帯広厚生病院への支援を行うとともに、医療機関の適切な利用に関し、各市町村におきまして、ホームページ、広報紙及びチラシなどにより、より一層周知を図っていきたいというふうに考えております。

次に、「地域医療体制の充実」ですが、基本目標兼成果指標につきましては、管内に就職した看護師数であります。平成29年度の実績値は昨年度からの累計で126人となっております。平成31年度の目標値は平成28年度からの4年間の合計で240人となっております。進捗率は52.5%となっております。取組実績及び進捗状況の評価ですが、帯広高等看護学院に対しまして、管内19市町村による運営費の負担を行うとともに、高等看護学院の卒業予定者に対しまして、管内の公立病院等の情報提供を充実させるなどによりまして、毎年度60人の管内就職者数を確保する目標を立てております。平成28年度、平成29年度ともに60人を超える就職者数となりまして、取り組みは順調に進捗していると評価したものです。今後の課題及び取り組みについてですが、医師や看護師などの医療従事者の確保のため、これまでの取り組みを引き続き継続してまいります。

次に、福祉分野でございますが、「地域活動支援センターの広域利用の促進」につきましては、基本目標兼成果指標を地域活動支援センター広域利用希望者の受入割合としております。平成31年度の目標値は100%を維持するというようになっております。平成29年度の実績値につきましては、平成28年度に続いて100%となっております。取組実績及び進捗状況の評価ですが、管内の地域活動支援センターについて、帯広市のホームページ一覧を掲載するなど管内市町村で情報共有し、広域利用の促進を

図ってきております。平成 29 年度は 91 人の利用希望者全員が利用できており、取り組みは順調に進捗していると評価いたしました。今後の課題及び取り組みにつきましては、今後も受入割合 100%を維持していくために、引き続きこれまでの取り組みを進めてまいります。

続きまして、「保育所の広域入所の充実」であります。基本目標兼成果指標は保育所広域入所希望者の受入割合としております。平成 31 年度の目標値は受入割合 100%を維持することとなっております。こちらも平成 29 年度の実績値は、平成 28 年度から続いて 100%となっております。取組実績及び進捗状況の評価につきましては、市町村相互での協議・連携によりまして、要保育児童の相互受入を実施しており、平成 29 年度は 5 市町村間で希望通り受け入れております。そういったことから取り組みは順調に進捗していると評価しております。今後の課題及び取り組みといたしましては、今後も受入割合 100%を維持していくために、引き続き、市町村相互での協議・連携を図り、相互受入を実施してまいりたいと考えております。

福祉の部分の最後になりますが、「高齢者の生活支援体制の構築」でございます。基本目標兼成果指標は介護士復職支援事業等参加者数でございます。平成 31 年度の目標値は 4 年間合計で 100 人と設定しておりますが、介護士復職研修の開催にあたりまして、周知には管内市町村の広報誌やホームページなどを活用してきたほか、高齢者施設や介護保険サービス事業所、養成校などと連携いたしまして、受講者数の確保にむけて啓発を行ってきております。しかしながら、平成 29 年度までの累計につきましては 13 人となっており、進捗率は 13%となっております。取組実績及び進捗状況の評価ですが、行政、関係団体、介護職養成校など関係者による意見交換会を実施、高齢者の徘徊に対応するための SOS ネットワークとの連携など、着実に取り組みが進んできておりますが、離職した介護の資格者の復帰に向けた研修会の受講者が少なかったことから、さらなる進捗が必要というふうに評価しております。今後の課題及び取り組みですが、介護分野の人材確保に向けまして、研修会開催周知の次期を可能な限り早くするほか、関係者間で人材確保に向けた情報共有を引き続き図ってまいります。

続きまして資料 4 になります。共生ビジョン懇談会意見等検討状況についてであります。いただきましたご意見のうち、管内での様々な子育て支援についての取り組みを地域住民へ情報提供してみてもどうか、というご意見がございました。前回の共生ビジョン懇談会後、調査、検討してまいりました結果、子育て支援に関する情報の発信につきましては、各市町村がホームページや SNS、広報誌などを活用し、支援内容に応じて適切な時期、方法により住民に周知を図ってきているところでもありますので、定住自立圏の取り組みとしての協議対象から除くことにいたしました。なお、それぞれの市町村におきましては、乳幼児医療費の助成対象者の拡大や、子育て世帯に対する相談体制の充実など、様々な子育て支援の内容についての情報発信は、引き続き積極的に実施してまいります。

次に 2 段目の東大阪市に設置されている子どもから大人まで幅広い支援を受けることができる障害児者支援センターと同様の機能についての取り組みはできないかというご意見がございました。こちらは、現在、国の基本的な考え方におきましては、自治体や圏域ごとに意見のありました機能を持たせた地域生活支援拠点を設置することとなっております。現在の検討状況でございますが、北海道におきまして、既存の障害福祉サービス事業所や施設、病院、障害者相談窓口などのさまざまな施設などを連携させることにより、地域生活支援拠点の機能を整えることとしております。こういった機能整備にあたりましては、管内市町村の現状と課題の把握など、さまざまな情報収集を行うことなどにより、今後も検討を進めてまいります。福祉医療作業部会からは以上であります。

【教育作業部会】

それでは、続きまして、教育作業部会分野の 1-3 教育についてご説明いたします。「図書館の広域利用の促進」についてでございます。基本目標兼成果指標は図書館の広域利用登録者数でございまして、平成 29 年度実績値は 32,841 人となり、目標値に対します進捗率は 53.6%となっております。これまでの取組実績につきましては、管内図書館間連携によりまして講演会などの事業を実施したほか、広域における図書貸出事業及び図書の相互貸借事業など、図書館サービスの向上の取り組みを実施してまいりました。また、十勝管内公共図書館協議会によりまして合同の研究会や司書部会を開催し、図書館職員の行員や能力の向上に取り組んできたところでございます。こうしたことから、各図書館の枠組みを超

えた提携協力が進み、成果指標である図書館の広域利用登録者の増につながっておりまして、取り組みは順調に進捗しているものと考えております。今後もより利用者のニーズに応えていくため、これまでの取り組みを継続していく必要があると考えておりまして、平成 30 年度も継続してこれらの事業を実施してまいります。

続きまして、1-3- (2) 「生涯学習の推進」についてでございます。基本目標兼成果指標は生涯学習関連情報へのアクセス数としておりまして、平成 29 年度の実績値は 44, 849 件で、目標値には達しなかった状況です。これまでの取組実績につきましては、各市町村において、ホームページをはじめ、広報紙や、施設内の情報コーナー等で、住民への生涯学習施設情報を提供いたしましたほか、圏域住民を対象とした教室、講座の開催や町村からの情報提供に基づきまして、帯広市のホームページで一括して情報発信を行ってきたところでございます。こうした生涯学習施設の連携した取り組みによりまして、施設の利用案内や催事、講演会など、様々な情報の集約と発信が進み、生涯にわたって学習できる機会の提供につながったと考えております。平成 28 年度は台風の被害等がございまして、アクセス件数が減少してございましたけれども、PR等をより充実させていきました結果、平成 29 年度は回復傾向にございまして、生涯学習情報を一括して発信する取り組みは着実に進捗していると考えています。生涯学習に対する多様な住民ニーズに応えるとともに、わかりやすく幅広い情報発信や PR 等に努め、平成 30 年度もこれらの状況を継続して取り組んでまいります。

続きまして、1-3- (3) 「スポーツ大会等の誘致」についてでございます。基本目標兼成果指標は管内で開催される国際・全国・北海道大会数としておりまして、平成 29 年度実績値は 72 大会、目標値に對しまして進捗率は 118%となっております。取り組みにつきましては、全道大会が 63、全国大会が 9 のスポーツ大会を開催しました。近年、管内では 660 程度の全国・全道レベルのスポーツ大会が開催されておりますほか、合宿で訪れる団体は、200 を超える規模となっております、一定の経済効果などにもつながっております。平成 29 年度は各競技団体が大会開催に向けた活動を強化いたしましたことにより、全道大会の開催数が増加いたしました、目標値に達しました。合宿で訪れる団体や大会の開催が着実に増加しており、取り組みは順調に推移していると評価しております。平成 30 年度は、管内で開催されている大規模なスポーツ大会や合宿の受け入れ状況を相互に共有するとともに、大会誘致等に関する連携を図り、施設環境の充実に向け取り組みを進めてまいりたいと思っております。

【座長】

ありがとうございます。ただ今の 2 つの部会の説明に関しまして、ご質問があれば発言をお願いいたします。

【委員】

意見でもよろしいですか。1-1- (1) 「救急医療体制の確保」について意見を述べさせていただきたいのですが、先ほど事務局から説明がありましたように、取組実績のところでは平成 25 年度から平成 29 年度の救急患者の推移が出ているのですが、ちょっと気にしているのは、平成 25 年度から平成 29 年度というスパンでいいますと、一次というか、軽症の患者さんの救命救急センターでの受診数は減っているのですが、平成 28 年から平成 29 年とほぼ 7, 000 人で、横ばい状態が続いているというのはちょっと懸念しています。と申しますのは、この一次救急で軽症患者さんが横ばい状態になるんですが、医療の分野でウォークインと申しまして、患者さんが自らの移動手段で病院にやってくる。自家用車で来るとか、タクシーで来る。こういった患者さんは周知等々で減っているんですが、その分増えているのが救急搬送患者なんですね。だから、救急車を利用して搬入される患者さんが増えているために、平成 28 年から平成 29 年と約 7, 000 人で、横ばい状態になっていることを懸念しています。救急搬送の地域患者というのは平成 27 年の時点で約 2, 000 人だったんですが、平成 29 年には、調べてみますと 2, 400 人を超える数になっているということが一つ上げられます。一方、救急の搬送という観点から見ますと、年度的には減っているんですが、残念ながら平成 28 年から 29 年と再び上昇傾向にありまして、平成 29 年で約 5, 000 人に達しているんですね。ですから、その部分の救急搬送の患者さんが増加している分が約 700 人いらっしゃる。

そのうちの3分の2が救急搬送された一次患者、軽症の患者であるということですね。そのところを医療・福祉作業部会のほうで厚生病院の救命センターとよく話をさせていただいて、背景を調査していただきたいというのが意見ということですね。おそらく、高齢者、あるいは独居、そういった方々が結構救急車を利用しているということで、昔から救急車はタクシーではありませんというキャンペーンをはっていたというふうに思うんですけども、なかなかそういうふうに行かない時代に十勝圏域が入ってきている可能性があるんじゃないかと懸念しているものですから、ぜひ調査をしていただきたいというのが意見です。以上です。

【医療・福祉作業部会】

わかりました。その辺のあたりをどういう背景があるのかどうかということにつきましても、厚生病院の救急のほうと意見交換をしていきたいと思います。

【座長】

救急搬送体制をどういうふうにご利用するかというのは、全国的に問題になっていることですので、実態をきちんと把握して、いろんな対策を考えていかなければならないと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。今回のポイントとしましては、進捗状況に関して、それぞれ評価がございますので、そのような評価でよろしいかということが一つポイントになろうかと思いますが、ご意見いかがでしょうか。それから、医療・福祉部会の方では、委員の方からの意見に対して、これを今後、定住自立圏の会議で扱っていくかどうかということが事務局の方から出されていて、最初の資料4のナンバー1については、定住自立圏の検討の中から外していくと。それから、2に関しては、まだ継続して協議をしていくというふうな扱いにさせていただくというのが事務局からの提案のわけではございますが、この辺に関して委員の方からご意見をいただければと思いますが、よろしいでしょうか。そうしましたら、事務局の提案どおりということで進めさせていただきたいと思います。そうしましたら、次に、産業振興・地産地消作業部会の検討に移りたいと思います。資料の説明をお願いします。

【産業振興・地産地消作業部会】

1-4-(1)「農商工・産学官連携及び地域ブランドづくりの推進」であります。基本目標兼成果指標は十勝産機能性素材を活用した新商品開発数となっております。目標値ですが、平成29年度の進捗率は89.9%となっております。主な取組実績でございますが、とち財団と域内外事業者との連携による機能性素材大豆ピニトールの抽出実証試験実施、地域事業者との連携による機能性素材を活用した新商品の開発などを行いました。進捗状況の評価でございますが、地域事業者との連携により機能性素材を活用した新商品開発につきましては、平成29年度には2件となり、前年比からは減少したものの、累計では8件となり目標値に向けて順調に進んでおります。総合的に勘案いたしまして、取り組みについては順調に推移していると評価しております。30年度の取り組みでございますが、機能性素材大豆ピニトールの新商品開発に係るコスト検証や民間主体となって事業化を進めるための検証などを行う予定です。

続きまして、「フードバレーとちの推進」でございます。基本目標兼成果指標につきましてはフードバレーとち応援企業数の累計値となっております。目標値でございますが、平成29年度につきましては実績値408件で、進捗率は56.8%となっております。主な取り組みとしましては、十勝産食材の付加価値向上・販路拡大。具体的には、国内トップクラスのホテルや飲食店等の食市場における十勝産食材使用のフェア開催やマッチングの実施等をしております。進捗状況の評価ですけれども、十勝産食材の付加価値向上・販路拡大について、グランドハイアット東京での十勝フェア開催など、有名ホテル等において十勝産食材が活用され、新たな流通ルートの開拓に至りました。それらを総合的に勘案いたしまして、取り組みについては順調に進捗していると評価しています。30年度の取り組みでございますが、これまで同様に十勝産食材の付加価値向上や販路拡大に努めることとなっております。

次に企業誘致の推進であります。基本目標兼成果指標は十勝管内の企業立地件数であり、平成31年度目標値は56件、平成29年度実績値は45件、進捗率は80.4%でございます。取組実績といたしましては、十勝地域産業活性化協議会において、企業誘致活動を実施しており、十勝に本社を持つ企業と取引のある企業に対し、企業立地動向調査を行いました。進捗状況の評価ですが、企業立地件数は新設・増設順調に推移しております。総合的に勘案いたしまして取り組みは順調に進捗していると評価しております。平成30年度の取り組みといたしましては、十勝地域産業活性化協議会による企業誘致活動の実施を予定しております。

次に、「中小企業勤労者の福祉向上」であります。基本目標兼成果指標をとちか勤労者共済センター加入会員数とし、平成31年度目標値は8,000人、平成29年度実績値は7,111人、進捗率は40.3%でございます。取組実績といたしましては、市町村連絡協議会を2回開催し、会員増強に向けた取り組み協議を行っております。進捗状況の評価ですが、会員促進の積極的な取り組みにより事業所数・会員数ともに増加となっております。総合的な評価は制度の周知・啓発など、さらなる進捗が必要と評価しています。平成30年度の主な取り組みですが、市町村連絡協議会を開催し、会員増強に向けた取り組みを協議します。

次に、「広域観光の推進」であります。基本目標兼成果指標は十勝管内の観光入込客数としており、平成31年度目標値は1,020万人、平成29年度実績値は1,042万人、進捗率は102.2%でございます。主な取組実績ですが、十勝一丸となった周遊ルートの造成や二次交通の周知などにより、観光客が周遊しやすい環境の充実が図られました。進捗状況の評価ですが、十勝管内の入込客数は、前年度比9%増の約1,042万人と過去最高となりました。平成28年8月の台風災害から回復したこと、年間を通して晴天に恵まれ、観光施設などの来場者数が好調だったことなどが要因と推測されます。平成30年度の主な取り組みですが、管内市町村や関係団体と連携し観光情報の提供を行います。

次に、「農業振興と担い手の育成」でございます。基本目標兼成果指標は担い手向け研修会への参加者数で、平成31年度目標値は50人、平成29年度実績値は15人、進捗率は7.9%でございます。主な取組実績ですが、管内農業者向けの研修会を開催しています。進捗状況の評価ですが、管内農業者向け研修会及び新規就農者合同研修会について、昨年よりわずかに参加者が減少しましたが、農業技術の向上や相互交流、担い手の育成を図ることができました。総合的には参加者数が減少していることから、今後さらに進捗が必要と評価しています。平成30年度の主な取り組みですが、管内農業者向けの研修会等を実施する予定となっております。

次に、「鳥獣害防止対策の推進」でございます。基本目標兼成果指標は鳥獣害による農業被害額で、平成31年度目標値は645百万円、平成29年度実績値は685百万円、進捗率は65.2%でございます。主な取組実績ですが、隣接する自治体間におけるエゾシカとヒグマの越境捕獲を実施しました。進捗状況の評価ですが、各市町村における鳥獣被害対策事業の実施により、平成27年度と比較して鳥獣害による農業被害額が減少し、目標達成に向けて推移しています。総合的にも取り組みは順調に推移していると評価しています。平成30年度の主な取り組みですが、越境捕獲の取り組みを継続するとしています。

次に、「地産地消の推進」でございます。基本目標兼成果指標は地産地消関連ホームページへのアクセス件数でございます。平成31年度目標値は10.1万件、平成29年度実績値は7.5万件となっております。取組実績として、管内直売所マップを市ホームページで周知しました。進捗状況の評価ですが、地産地消イベントや直売所の情報提供などの継続により、地元の食への理解が徐々に浸透されてきているものの、SNS等の他の情報ツールの普及もあり、地産地消関連ホームページへのアクセス件数が昨年度より減少し、目標値に対してもマイナスの進捗率となっております。総合的に勘案いたしますと、さらなる進捗が必要と評価しております。平成30年度の取り組みですが、市ホームページの管内直売所マップを更新するとともに広く周知を行います。

資料4、共生ビジョン懇談会のこれまでの意見等の検討状況ですが、口蹄疫や鳥インフルエンザなどの防疫の関係です。現在の検討状況ですが、とちか帯広空港での消毒マップの設置やレンタカー会社等へ注意喚起のチラシ配布を行っております。各自治体におきましても防疫体制を整えていく

ことから、本件につきましては、定住自立圏の取り組みとしての協議対象から除き、引続き各自治体間での情報共有などを行いながら対策を進めてまいります。

農業大学校での農業者限定のけん引免許の創設です。現在の検討状況ですが、農業大学校の対応につきましては、北海道と継続してきましたが、人員体制など難しい課題があるため、今後の課題について関係機関等含め協議検討を進めてまいります。継続協議とさせていただきます。

アライグマ等被害対策について現在の検討状況です。昨年度より十勝総合振興局が中心となりまして、十勝管内アライグマ対策会議を立ち上げ、十勝管内の情報共有を図っております。昨年取り組み状況につきましては、ラジオ、広告やチャイへの掲載、ポスターチラシの配布よりアライグマへの注意喚起を行うとともに目撃情報を呼びかけています。今後もアライグマ対策会議において十勝管内の情報共有や対策について検討していくことから、本件につきましては定住自立圏の取り組みとしての協議対象から除き、各自治体において特定外来生物防除、有害鳥獣害駆除の両面からの取り組みを進めていきたいと思っております。説明は以上です。

【座長】

今、産業振興・地産地消作業部会のほうから、取り組みの評価、それから委員の皆さんから出された意見に関してどういうふうに対処かという提案がありました。ご質問等があればご発言をお願いいたします。

【委員】

1-4- (6) 農業振興と担い手の育成ということですが、新規就農とか若者の研修会とかがあるんですけども、今ちょっと問題となっているのは人口がかなり減少していますから、例えば、野菜の選果場のパートさんがだんだんいなくなっている。あと、農家さんの草取り、長いもの収穫、いもの掘り取り作業という、そこら辺の労働力不足が問題になってきていますので、この対策として機械化が一番いいのしょうけれども、ICT とかそこら辺の対策をもう少し考えてもらえないかということですね。

あと、5 ページの環境の関係ですけども、温室効果ガスということで書いているのですが、地球温暖化ということですが、農協関係でも野菜を貯蔵する大きな冷蔵庫、また、製氷機という機械がありまして、フロンを使っています。国の事業で脱フロンということで、いろいろ対策はされているんですけども、やはりこれからの事業費の拡充とか、フロンの温室効果ガスの対策ということでやっていかないと温暖化の対応ができない。そこら辺の対策を考えてほしい。

防災の関係で台風の被害が一昨年あったんですが、音更町は三つの川が川下ということで、堤防ぎりぎりまで水がきましたんで、いろいろと開発の方で対策はしていただいているんですけども、川底がかなり上がっているんですね。土砂がかなり流れてきているということで、土砂を国の予算ではできないという話もあるんですけども、一般の業者に任せるとか。あと、木ですね。枯れ木もかなりありますから、そこら辺を処理していかないと、今度また大きな台風が連続できますと、本当に大変な被害が出るということが懸念されますので、そこら辺の対策も考えていってほしい、ということです。以上です。

【座長】

環境と防災に関してはまだ範囲外ということで、後回しにさせていただきます。現時点で何かお答えいただけることがあればお願いします。

【産業振興・地産地消作業部会】

人口減少にともないまして、担い手というよりも労働力不足が現在問題となっています。市の取り組みになりますが、労働力不足対策として十勝管内のアルバイトの取り合いをしているような状況もあり、そういう状況にならないよう注意していかなくてはと考えています。市の具体的な取組例といたしまして、首都圏からのインターシップ事業、こういった形をとっています。農家のアル

バイトを希望する方のマッチングのシステム化について、現在、取り組みをしているところです。以上です。

【座長】

この点はビジョンの改訂や、次期ビジョンの議論をして、扱っていくのかどうかも含めて問題になってくると思います。このような意見として受け取っていただきたいと思います。他にございますか。

【委員】

同じく 1-4- (6) 農業振興と担い手の育成というところでの質問なのですが、この進捗率を見ましたら、ほかの項目と比べて大分低いのですが、誰が考えても十勝地方は一次産業が基幹産業です。誰も疑うところがないと思います。その次の世代の人たちに対して、若者が夢や希望を持って十勝の農業を支えていくんだという話だとか、本当はしていかなければいけないのに、この達成率をみますと、ただ単に 7.9% でしたというふうに終わってしまって、どうなのかというのが感想です。最初に人口の割合だとか、いろんな数字が出ましたけれども、この問題提起はこれから人口減少にむかって、生産年齢人口が減り、次の担い手であります年少人口もどんどん減っていくと。こういった中でこれを止めなければいけない。少なくとも割合を増やしていかなければいけない、そういう問題提起だったのかなと私は認識しています。その時に、今後の課題と平成 30 年度の取り組みの中で、農業生産法人等とのマッチングや、情報提供、さらには関係機関等と連携を図ると書いてはありますけれど、果たして緊張感をもって進めていたのかどうかという疑問をすごく感じています。農業をこれからやっていく人たちはこれからの十勝を支える金の卵です。この人たちに夢や希望がかなうような情報提供、それから違った分野の人たちとの話し合い、情報をぜひとも提供してほしいと思います。

あとは、鳥獣防止対策なんですけど、先ほどちょっと違和感をもって、いつもこういう話を聞いていますが、被害は少なかったといいますけれども、私は農業をやっているものですから、今日も午前中にビートに防除をやってきました。その時に鹿と追いかけてあいをやってきました。国、道、そして個人の経費を捻出しまして鹿柵をしております。さらにその内側に国の補助で電気柵をしております。だから二重の状態です。鳥獣からの被害を抑えようとしていますけれども、それでも入ってくるんです。私が収穫しているのは、鹿や熊が食べ終わった後を私が収穫しているという感覚であります。ビート、アズキ、ダイズ、ジャガイモ、近年になく被害が多いです。そういった中で地域性はあるかと思えますけれども、こういうふうに十勝全域の中で見たときに減少傾向だと言われたら、ああそうかと、少なくなっているからそんなことをこれからは重点的に考えなくてもいいのではないのかと一般の人が思うんじゃないかと思ひまして、非常にこのところが懸念材料です。ぜひともあまりにも表だって言わないでほしい。去年よりも今年は非常に被害が大きいです。

【座長】

2 つ意見がありました。担い手の成果指標は適切かどうか、それから被害額の把握の仕方について課題があるのか、そのことについてお答えいただければお願いします。

【産業振興・地産地消作業部会】

まず、研修の参加者ですが、確かに一つの研修会に範囲を絞って数値を示させていただいているものですから、参加者の人数が少ないといった結果になってございます。研修の内容につきましては、先輩の農業者の方から、新規的な取り組みですとか、農業経営関係の意見を聞きながらの研修となっている。研修する時期、時間帯については、農業者の方が参加しやすい時期ということで 1 月、2 月に研修会を実施しているところでございますけれども、ただ、この時期といいますと農協、農協連、ほかの農業団体等も同じように研修会等を重複して行っているものですから、農業者の方の参加のバリエーションが広がっているものですから、この成果指標の対象としている研修会に参

加したくてもできない場合もございますし、どうしても参加したい方が参加しているといった状況にあり、数値としては少ない状況になっております。こういった状況をなるべく防ぐために、いろいろな研修等がバッティングしないように他の団体と調整をしていきたいといったところです。

【座長】

おそらく今のような点は、次期ビジョンに成果指標をどういうふうにとらえるかということで、また検討していかなければいけないことだと思いますので、委員の方にもそういうことも少し先になりますけれど、お考えいただければと思います。

【産業振興・地産地消作業部会】

農業被害額についてお答えさせていただきます。こちらの農業被害額につきましては、各市町村が農業者の方から聞き取りをいたしまして、その数値を十勝全体でとりまとめをして発表させていただいている数字です。確かに減少傾向ではありますが、農業被害は依然として続いておりますので、エゾシカにつきましては国や道の事業でジビエ利用の拡大推進の事業も始まっておりますので、そちらの事業とも連携しながら、情報共有を図り、今まで以上に効果的で効率的な捕獲、駆除を進めてまいりたいと思っております。

【委員】

全体として減っているといいますが、私は浦幌町なんですけど、町に隣接しているんですよ。畑の隣が浦幌の市街地区なんです。ハンターが山の中に入って撃つもんですから、町に近いところに来てしまうんですよ。国道もある、民家がすぐ近くにあるものですから、集まってくるのではないのかなと思う。例年、減少傾向だと、捕獲頭数が増えているから被害額も当然減ってくる、そういうようなデータが出ていますけれども、実際に現場では、町近郊は増えているとしか思えないんです。それに対してどうにもできないと。そういうことがいろんな人に聞いたときに、結論はそういうことになってしまうのかなど。捕れない、撃ちにくい、国道もある、町もある、それでどうしようもないんだということなので、なんとかできないのかなということを検討していただきたいと思います。

それは別にして、北海道に住んでいる以上、鳥獣の被害は間違いなく隣り合わせで、しょうがないのかなと思いますけれども、先ほどの農業の担い手の関係の研修なんですけど、従来の研修では、農業後継者、農業をやっている方の息子さん、娘さんはおそらく、研修はしなくても父親、母親といういいモデルがあるから大丈夫だと思うんですけども、農業に対して魅力を感じる都会の人たちにもっと手厚い講習会などをぜひとも考えていただき、振興局に任せるだけではなく、さらに別の会、組織には、都会から来る若者たちに夢や希望を持てる話ができる、指導ができる、そういう人たちを呼んで講演なり、講習なりをしていくことは食糧基地である十勝の責務だと思っております。ぜひとも対応を含めて検討をしていただき、参加人数がもっと増えるようなことを、もっと前進して考えていってほしいと思います。

【座長】

時間のこともあるので、ご意見として伺っておきたいと思います。ほかにいかがでございましょうか。かなり次期に向けたご意見も含めて出ておりますけれども。よろしいですか。そうしましたら、産業振興・地産地消に関して、ご意見をいただいたということにさせていただいてよろしいでしょうか。さっき、申し訳ありませんでしたが、次期に向けての検討のご意見をきちんと伺っておりますので、この後再度時間を少しだけ取らせていただきますのでご容赦いただきたいと思います。そうしましたら、続いて環境作業部会、企画作業部会、人材育成作業部会、幹事会につきまして、資料の説明をお願いいたします。

【環境作業部会】

環境作業部会からご報告いたします。取組項目といたしましては、「地球温暖化防止に向けた低炭素社会の構築」。基本目標兼成果指標は、広域連携啓発事業参加者数となっております。平成 29 年度の実績が 1,225 人、進捗率が 63.8%となっております。取組実績ですが、講演会やパネル展の実施、環境意識の啓発に関する事業を実施しております。各自自治体におきまして、一般住宅への再エネ・省エネ機器の導入・補助の外、公共施設への導入を進めております。昨年度から、とちぎ市町村一斉ノーカーデーを 6 月から 9 月までの第一金曜日に実施しております。その他、環境関連の企業や団体が集まる環境イベント、とちぎ市民環境交流会におきまして、ブースを設けまして、とちぎ一斉ノーカーデーの実績や各市町村における取り組みなどを紹介しております。進捗状況の評価ですが、市町村と連携したブースの展示や、ラジオ局と連携した周知により、前年度よりも参加者数は増加し、目標値に向けて順調に推移しています。今後の課題・平成 30 年度の取り組みとしては、家庭部門からの二酸化炭素の排出量が依然として多いことから引き続き意識啓発に取り組みまして、具体的な環境行動を促す必要があると考えております。また、再エネ・省エネ機器の導入につきましましては、非常に効果が高いことから、引き続き導入を進めていきたいと考えております。その他、環境交流会におきまして、引き続き市町村が連携するだけでなく、地元ラジオ局などと連携して環境意識の啓発を進めていきます。また、ノーカーデーの取り組みにつきましましては、バス会社と連携しながら進めてまいります。その他、引き続き再生可能エネルギーや省エネルギー機器の導入・促進を進めてまいります。環境作業部会からは以上でございます。

【企画作業部会】

はじめに、「航空宇宙産業基地構想の推進」でございます。基本目標兼成果指標、出展イベントにおけるブース来場者数につきましましては、前年度より 190 人増加し目標値を達成しております。

主な取組実績といたしましては、各種イベントへの出展による普及啓発活動のほか、中央省庁等への要請活動を行った。今後につきましても、地域住民への普及活動等積極的に行いながら、地域の機運の醸成を図っていききたいと考えております。

続きまして、「地域防災体制の構築」についてご説明いたします。基本目標兼成果指標、自主防災組織数につきましましては、前年度より 23 組織増加し 325 組織となりましたが、進捗率は 16.3%に留まっているところでございます。リーダーや活動要員のなり手不足などが要因として考えているところでございまして、さらなる進捗が必要と考えています。これまでの取組実績といたしましては、これまでの災害の経験を踏まえました、防災体制の強化・地域住民への防災意識普及啓発等を行っているところです。今後につきましても、災害備蓄の充実や自主防災組織の育成に継続して取り組みます。特に幅広い世代に対する防災意識の啓発や民間企業関連団体等との連携を深めまして、地域全体の防災の底上げを図っていきたくと考えております。

続きまして、「地域公共交通の維持確保と利用促進」についてご説明いたします。基本目標兼成果指標、十勝管内バス利用者数につきましましては、前年度より 13 万人増加いたしまして、466 万人となっております。目標値を上回っているところです。これまでの利用促進の普及啓発活動や路線維持確保の運行経費の補助によりまして、バス交通の維持・確保やバス利用者への利用促進の取り組みは順調に推移していると評価しているところでございますが、一方 人口減少等に伴いまして交通事業者を取り巻く環境は厳しくなっていると捉えているところです。今後も交通事業者や関係自治体と連携しながら住民にとって利用しやすいバス交通体系作りや利用促進に引き続き取り組む必要があると考えています。

次に、「移住・交流の促進」でございます。基本目標兼成果指標は移住者数でございますが、前年度よりも 8 人減少し 152 人となりましたが、進捗率は目安となる 50.6%となっているところでございます。取組実績といたしましては、十勝帯広空港、競馬場、帯広駅に全 19 市町村のパンフレット設置のほか、十勝圏複合事務組合と連携し移住促進イベントの参加などによる各市町村の魅力発信や移住関連情報の一体的発信を行ってきたところであり、取り組みは順調に推移していると評価しているところでございます。圏域全体の人口が減少する中、十勝への人の流れを創出するため、今後も移住希望者に対するより効果的・効率的な情報発信の取り組みを進めて行く必要があると考

えているところでございます。

最後になります、「結婚を希望する若者の支援」についてご説明いたします。基本目標兼成果指標、北海道結婚支援ホームページへのアクセス件数につきましては、前年度の推計値より 114 件減少いたしました。目標値を下回っております。取組実績といたしましては、十勝総合振興局が設置し、各市町村が参加する十勝管内結婚支援協議会と連携しながら自治体ごとに結婚推進イベントを開催しているところです。今後もより効果的な結婚支援事業の発信に向けた検討を進めるとともに、結婚を応援する気運を高めまして若者の希望をかなえられる地域づくりを進めることが必要と考えています。参考資料として配布させていただいております資料ですが、昨年のビジョン懇談会におきまして、各自治体における移住者・定住者の定着についての取り組みについて教えて欲しいとのご質問を委員より頂きましたことから そちらを取りまとめた資料でございます。企画作業部会からは以上でございます。

【人材育成作業部会】

「職員研修及び圏域内人事交流」について説明いたします。基本目標兼成果指標は職員研修（特別研修）参加者数であります。目標値 507 人に対して、平成 29 年度実績といたしまして 543 人の参加があり、進捗率は 178.3%となっております。取組実績・進捗状況の評価ですが、取組実績につきましては、十勝市町村職員研修計画に基づき、外部研修講師等により実施する特別研修すべてを圏域合同で実施いたしました。また、遠方からの参加者に配慮し、半日研修の導入やブロック別出前セミナーの実施など、研修へ参加しやすい環境づくりに努めました。進捗状況の評価ですが、特に参加率が低調でございました中堅職員の受講促進については主任職選択必修制度を設けまして、参加者増に繋がりました。取り組みは順調に進捗していると評価しています。今後の課題・平成 30 年度の取り組みといたしましては、引続き効果的な募集 PR などに取り組み、研修参加者の維持・増加に繋げていきたいと考えています。平成 30 年度の取り組みといたしましても、研修受講を促すメールマガジンの配信や研修効果の測定方法について受託業者と検討しながら受講意欲を喚起するような研修につなげていきたいと思っております。説明は以上でございます。

【幹事会】

「圏域レベルのデータ集積・活用」についてご説明いたします。基本目標兼成果指標は、調査分析報告書の作成数でございます。取組実績といたしましては、十勝の人口動態に関する分析を進めており、中間まとめを行いました。今後の平成 30 年度の取り組みといたしましては、引き続きデータ収集を進め、最終報告に向けて引き続き分析作業を行ってまいりたいと考えております。以上です。

【座長】

ありがとうございました。非常に幅広い分野からの説明がございまして、先ほど委員から環境に絡みましてフロンを媒体にした冷却施設の利用の実態、対策のこと、河川の川底の浚渫ですとか、漂流物撤去の要請的なこと、これに関してはご意見として伺わせていただいて、検討会で検討していけるものなのかどうかということもございますので、そのような扱いにさせていただければというふうに思います。皆さんのほうからは、事務局の方から報告がありました取り組みの実績ですとか、その評価に対して、ご意見等があればご発言をお願いいたします。

(質問・意見なし)

【座長】

よろしいですか。それでは基本的に事務局から提案された評価ということでまとめの方向にさせていただければと思います。それで、先ほど申し上げましたとおり、最初の医療・教育等のところでビジョンの改訂ですとか、次期のビジョンに向けてこのような検討はできないものかというよう

なご意見がございましたら、頂戴したいと思います。

【委員】

次期ビジョンの策定に向けて検討ができるかどうかということで、医療の分野で要望したいのですが、二つあります。一つは、定住自立圏ということで、十勝管内が安心して健康に暮らせる医療、環境対策、取り組みということで、受動喫煙被害の防止に対する禁煙の取り組みというのが、法整備もされておりますし、指針にもなってきているところを考えまして、このビジョン懇談会でも受動喫煙被害を防ぐための禁煙の推進ということが盛り込めないかなということが第1点。

2点目は、さきほど人口の推移のところの説明があった、十勝管内の死亡率というところを見ますと、平成20年から24年のところでは、10万あたりの死亡率が全国平均より高くなってきているというところがあります。そこで一つ問題となってきているのが、がんの死亡率なんですね。例えば、すい臓がん、大腸がん、肺がん、こういったものの死亡率が全国平均より高いということがありますので、そういったものをスクリーニングする、検診ですね、検診の推進ということが盛り込めないかどうか、この2点について検討できればありがたいなど。

【座長】

また、検討していただくということで。今のようなご意見を皆さんからいただければというふうに思うんですが。何かございませんか。

【委員】

次期ビジョンの検討課題ということなんですけれども、保育士が慢性的に不足している状況にありますので、保育士の資格を持っていなくても、研修を受講すれば保育従事者ですとか、保育補助員になることができる子育て支援員研修というものが、北海道では札幌で年に1回開催されているんですけれども、受講者の確保や開催経費の負担等で、単独開催が非常に難しいと聞いているものですから、この子育て支援員研修を定住自立圏での定期開催として、次期ビジョンでぜひ検討をしていただきたいというのが私からの意見でございます。

【座長】

他になければ、本日の意見交換を終了させていただきます。事務局におかれましては、本日いただいたご意見等についてご検討をいただき、次回懇談会において対応の考え方などをご提示いただくようお願いいたします。

次に、「6 その他」に入ります。事務局から説明をお願いします。

6 その他

事務局より、今後の流れ（意見シート、次回日程（10月予定））、謝礼の支払い、マイナンバーの提出等について説明。

【座長】

ただ今の説明に関して、ご質問等はございませんでしょうか。

（質問・意見なし）

【座長】

別になければ、事務局からは以上といたします。

委員の皆様から、全体を通じて確認、あるいはご質問等ございましたら、ご発言願います。

（質問・意見なし）

7 閉会

【座長】

以上をもちまして、本日の会議の日程は全て終了いたしました。
円滑な会議運営にご協力いただき、誠にありがとうございました。
これもちまして、第1回目の懇談会を閉会いたします。本日はお疲れ様でした。